

経営課題解決のトレンド 副業・兼業人材の活用

秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点、県内企業での外部人材の戦略的な活用推進を目指し、2021年11月17日、秋田ホテル（現ANAクラウンプラザホテル秋田）を会場にWebセミナーを開催。県内企業、中小企業支援機関、商工団体等が参加した。




PwCコンサルティング
合同会社



ディレクター **大橋 歩氏**
おおし あゆむ

第1部では、プロフェッショナル人材戦略全国事務局 PwCコンサルティング合同会社ディレクターの大橋歩氏が、外部人材による経営課題の解決と、「大企業連携」スキームでの外部人材活用について講演。コロナ禍を機に新事業に着手した企業が経営環境の早期回復を見込む一方、足踏みをしている企業は「スキルや知識を有する人材の不足」を理由に挙げているとし、中小企業が抱える人材不足問題が、単純な人手不足から、近年は一定のキャリアを積んだミドル人材の不足に変化していると話した。さらにDX化やリスキングの流れで、1人が1社に依存しない「1対N型」の新たな雇用形態が生まれていると力説。「副業・兼業マッチングは供給過多。首都圏で働く希望者の8割以上が地方での副業意欲を示している。やりがいなどの非金銭的報酬を求める傾向にあるため、求人側はより魅力的な役割や仕事を上手く切り出すことが有効。まずは一度でいいので活用してほしい」と呼びかけた。


第2部では、実際に外部人材を活用し、経営課題解決へ取り組んでいる県内企業4社の代表者が登壇。プロフェッショナル人材戦略拠点の佐藤隆夫マネージャーがコーディネーターを務めトークセッションが行われた。株式会社青山精工は、同社で導入した最先端の加工機を扱えるオペレーターの育成をねらい、外部人材を登用。代表の青山亜起菜氏は、「当初は正規雇用で探していたが難しく、副業人材活用での社員人材育成へと切り替えた。期間は1年間、月に1回のカリキュラムで、社員2名が課題をこなしながら取り組んでいる。首都圏で経験を積まれた方からノウハウを教えてもらう機会はめったにない。社員もモチベーションが上がっていると感じており、今までにない刺激を受けている」とその効果を話した。質疑応答では、コロナ禍での受け入れ体制や具体的な労働条件、外部人材登用に対する従業員の反応等について回答した。



株式会社
青山精工

代表取締役
青山 亜起菜氏
あおやま あきな


県内でも数台の最先端加工機による新規顧客獲得をねらい副業人材を活用。「今後は指導対象でない社員も含めた交流会を開き、全社員に刺激を受けてもらいたい」。



株式会社
山王電機製作所

代表取締役
本間 淳氏
ほんまじゅん


非接触型トイレ節水装置「センザレット」の販路拡大をねらい副業人材を活用。「当事者意識を持って取り組んでくれる。社員に会社の方向性を示せたことが現状での一番の収穫」。



有限会社
秋田かまくらミー

代表取締役
村上 政勝氏
むらかみ まさかつ

都市部への販路開拓のため副業人材を活用。「スピード感とエネルギーに圧倒。数字はこれからだが大きな期待をしている」。



宮腰精機株式会社
国見工場

取締役工場長
藤原 鈴司氏
ふじわら れいじ

オフセット輪転印刷機にAIを搭載する世界初の開発へ向けて副業人材を活用。「副業人材の方の人脈にも力を貸していただいた」。

参加者の声



株式会社大栄木工
代表取締役 **能登 一志氏**
のとかずゆき

当社では、木製建具の製造や販売等を行っております。業者からの人材紹介は日々あるものの、ヘッドハンティングや高額報酬にネガティブなイメージを拭えずにいた中で、本セミナーの開催

を知りました。部分的、短期的な関与で真の成果を生むことは困難と考えていましたが、本セミナーで働き手の価値観や働き方が大きく変化してきていることを実感しました。ゴールと引き際を明確にし、その間はセオリーに捕らわれず外部人材の意見に柔軟に耳を傾けること、また従業員が外部人材活用の有効性を理解し、信頼関係を構築できるように外部人材、経営者、従業員間の継続的な対話が事業の成功に欠かせないと感じました。

秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 【お問い合わせ】 TEL.018-860-5624

「攻めの経営」への転換や経営改善に意欲的な企業が必要とする、多種多様な「プロフェッショナル人材※」の獲得を支援します。※経営経験者、有資格者、副業人材、シニア等